

9月の県内景況調査結果の概要

1. 主要指標の前年同月比DI値の動き

3年9月のDI値は8指標中、7指標が上昇。特に「売上高」においては2桁の大幅な上昇。また「雇用人員」のみ横這いとなった。

2. 県内中小企業の景気の現状

解体工事業では引き続き需要が好調であった様子。また多くの業種から設備投資や売上が回復傾向にあるとの声や行動制限緩和に期待するとの明るい報告も寄せられた。

一方、高齢化や人材・後継者不足など慢性化する労働力問題をはじめ、依然として原材料高や燃料価格の値上がりも続いている。加えて、長引く新型コロナウイルスの影響により、部品・資材不足の発生、集客を見込めないなど、先行きを不安視する声も多くの業種から寄せられた。

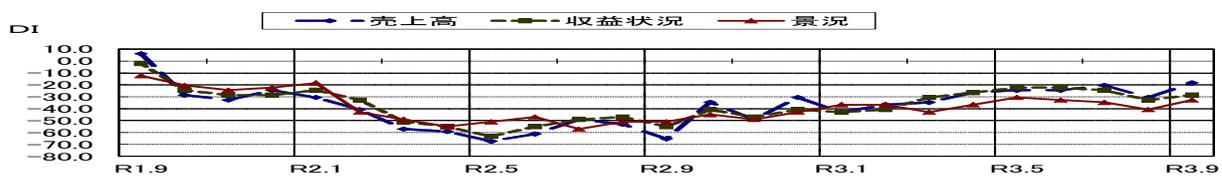
景気は米中貿易摩擦や日韓関係の悪化など緊迫する国際情勢、また我が国をはじめ世界中で出口の見えない新型コロナウイルス問題など国内外経済の下振れリスクが顕著化してきており、一部に持ち直しの動きがあるものの景気の低迷が続いている。県内中小企業においても、更なる景気の悪化に備える必要がある。

最近の主要指標の前年同月比DIの推移

	R2 9月	10月	11月	12月	R3 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	前月比 増減
景況	-51.0	-44.9	-49.0	-42.9	-36.7	-36.7	-42.9	-36.7	-30.6	-32.7	-34.7	-40.8	-32.7	8.1
売上高	-65.3	-34.7	-49.0	-30.6	-42.9	-36.7	-34.7	-26.5	-24.5	-24.5	-20.4	-30.6	-18.4	12.2
収益状況	-55.1	-40.8	-46.9	-40.8	-42.9	-40.8	-30.6	-26.5	-22.4	-22.4	-24.5	-32.7	-28.6	4.1
販売価格	-10.2	-8.2	-2.0	-6.1	0.0	-6.1	4.1	6.1	12.2	18.4	18.4	12.2	18.4	6.2
取引条件	-12.2	-18.4	-16.3	-12.2	-14.3	-12.2	-14.3	-16.3	-18.4	-8.2	-12.2	-16.3	-14.3	2.0
資金繰り	-24.5	-18.4	-24.5	-24.5	-26.5	-24.5	-18.4	-26.5	-20.4	-14.3	-16.3	-14.3	-10.2	4.1
設備操業度	-18.4	-14.3	-16.3	-14.3	-16.3	-12.2	-12.2	-10.2	-6.1	-6.1	-4.1	-10.2	-6.1	4.1
雇用人員	-6.1	-6.1	-8.2	-8.2	-4.1	-8.2	-6.1	0.0	2.0	-2.0	-10.2	-8.2	-8.2	0.0

※DI値・・・好転（増加・上昇）したとする割合から、悪化（減少・低下）したとする割合を差し引いた値のこと。

前年同月比DIの推移



[景況関連の報告]

【製造業】

<食料品>

1. 味 噌・前年同月比、みその生産量は101.5%、出荷量は98.7%であった。前月比でみその生産量は101.5%、出荷量は107.1%であり、9月は前年同月に比べ生産量、出荷量ともに大きな変動はなかったが、前月比ではやや上向きとなり昨年度の出荷量とほぼ同水準まで回復。国内、県内におけるコロナ感染者数も低下してきており、食品業界の動きも回復しつつある。依然としてコロナ感染の影響は大きいと同時に消費者の健康志向も高まっており、今後現状に合わせたみそ関連商品の開発、PRを進めていきたい。
2. 漬物・漬物製造業者ではコロナ緊急事態宣言の緩和による人流の増加を期待している。農家ではニンジンの種蒔きの準備段階である。いずれにしても労働力の不足に悩まされている。技能実習生の入国の再開が待たれる。

<繊維・同製品>

3. 縫製・コロナが一旦落ち着く気配が感じられるせいか繊維業界は、2021年予測では持ち直し傾向にあるという風潮はあり、徳島県でも業種に関わらず、景気回復への期待が膨らんでいる。当社では、作業効率がかどらず人員増の傾向にもなっているが、労力不足が生産数に影響している現状は依然として続いている。生産については、従前と同じく次月以降分の製品備蓄を中心に展開し、後半に向けて生産効率に注力予定である。

<木材・木製品>

4. 製材・原木の量が少なく、材料の確保に困っている事業者が多い。製品の販売価格は上昇しているものの、年内は横ばいで推移するものと考えられる。
5. 木材・9月については外材輸入、特に原木についてはひところよりも量が多くなり価格も下降気味であるが、製材品がまだ価格が高いまま推移している。また国内材についても価格が高水準で推移している。
6. 木材・原木丸太、遅れていた木材が集中して入ってきた。単価が高い内に売りたい。

<印 刷>

7. 印 刷・9月は休みの日が多く、仕事量も少なく売上の低い月となる。10月～11月に開催される秋のイベント関係で巻き返しをしていかなければならないところ緊急事態宣言が解除されイベントも少しずつ開催に向けての動きも出てきている。一方パルプや原材料費の高騰、運賃値上げによる物流コストの上昇で用紙等の値上げによる価格改定の動きも出てきている。ワクチンの効果で経済活動が活発になっているのかもしれないが、地方ではもうしばらく経費を抑え、固定費を低くして凌いでいかなければならない。
8. 印 刷・業界としては例年9月は比較的売上高、収益状況ともいい月であったが、コロナの影響でシルバーウィーク中のイベントもなく、またお客様の動きも鈍く、予想以上に悪い月になった。10月は緊急事態宣言や時短の解除で少しでもいい流れになって8月、9月の遅れを取り戻したいものだ。

<窯業・土石製品>

9. 生 コ ン・9月は昨年同月と比較して約13%増加。近年は毎年9月から12月にかけて出荷が最盛期であるが、最も忙しい時期でも出荷量はそれほど多いわけではなく、とりわけ公共工事の上半期の発注量がこの繁忙期の出荷量を左右する。
10. 生 コ ン・9月の出荷数量は、対前年同月比16%減であった。要因としては、出荷数量が前年同時期と比較して大幅な減少となった。官での大型工事での新規物件の減少による。今後の展開としては県・国等の公共工事は、秋口以降に新規発注が見込めるものの前年並みの数量確保は厳しいと思われる。

<鉄鋼・金属>

11. 鉄 鋼・売上高は若干の増加傾向にあるものの業況感は全体的に横ばいの状況であり、原材料価格などの高止まりの影響が懸念されており、引き続き厳しい状況下である。今後、コロナ禍の影響が和らぎ景気回復することが期待される。
12. ス テ ン レ ス・緊急事態宣言、まん延防止等防止措置の全国解除に向けて、国内の状況としては、経済活動に再開の動きが見え始めている。海外についても、日系企業中心に現地での打ち合わせや施工工事への対応準備が動き始めている。但し、世界的な半導体不足の問題に加えて、ステンレス・鉄・アルミ等の材料価格の高騰、電気部品・装置部品の長納期化の問題が生じ、今後の生産活動に懸念が発生している。今後も経済活動の再開に向けた準備と、感染再拡大に備えながら社員の感染予防を含めた対策を講じつつ企業活動レベルを維持するように努めている。

<一般機器>

13. 機械金属・景況感は、前年同月と比べると、一部に持ち直しの動きも見られるが、全国でも、9月末で緊急事態宣言などが解除されたものの、長引く新型コロナウイルス感染症の影響もあり、営業活動の停滞、投資の中止や延期等により、売上高や引合いなどに厳しい状況も見られ、市場の変化が大きく、先行きの見通しが不透明な経営環境である。また、需要の停滞をはじめ、従業員の確保難、原材料価格その他の経費の増加なども、依然として経営上困難な課題として見受けられる。

【非製造業】

<卸売業>

14. 食糧卸・業務用消費回復に期待。

<小売業>

15. ショッピングセンター・前年9月は改装の真っ最中で、(月中に)閉店した店舗があれば(月中に)開店した店舗があり、一概に良かった、悪かったの判断は難しい。数字的には、前年対比は売上99.8%、客数107.5%だった。数字のみで判断すると前年トントンというところだろうか。先月、「8月は今年に入って既存店としては一番売上の高い月だった」との報告したが、9月は8月の87.5%だ。小売業は一般的に2月と9月は年間で売上比率の低い月なので、こんなものだろう。

16. 量小売業・コロナが下火になるとともに、中旬以降徐々に一般家庭用の問い合わせが増えてきた。台風も直撃を免れ、月末にかけ納品が増えてきた。しかしながら全体では減少。

17. 機械器具・商品調達が困難になって来ており、来年以降少し懸念している。

<商店街>

18. 徳島市・飲食店時短要請のため、早い時間に閉まる店舗がほとんどで人の流れも見られなかった。

19. 徳島市・残暑が厳しい上、飲食店の時短営業もあり相変わらず人の出は少ない。三越徳島に期待したいが、規模が小さすぎる。

20. 鳴門市・組合員全店、特にイベントもなく大きく売上げは変わらない月だった。新しく1社、組合員が入会した。

<サービス業>

21. 土木建築業・徳島河川国道事務所9月の動向は、先月と比較して工務課は新直轄工事は新規工事の工事・業務も一般道改築も同程度。道路管理課は業務・工事等は同程度で順調に進捗している様子。交通対策課は課全体の工事・業務は少ないが、先月と同程度。全体的に先月と大差はないが、9月全日コロナ感染防止対策として7割減出勤となり、自宅での在宅勤務orリモート勤務となり作業量は落ちている。去年度との比較については、業務（工事発注に向けての資料作成量）は増加したが、金額的には各課（工務・道理・交対課）減少。前年度と比べ、工務では職員の不足により、当組合技術員の作業量が増え職員がやるべき作業をやることとなり、リモート作業の中、難しい対応を迫られ組合技術員は苦慮している。（契約外業務の指示あり）
22. 自動車販売整備業・登録車（普通車）の新車登録台数は対前年同月比-33.9%の1,022台、中古車は-16.6%の428台、合計では-29.6%の1,450台であった。軽自動車の新車登録台数は対前年同月比-44.2%の772台、中古車-4.9%の390台、合計は-35.2%の1,162台である。登録車・軽自動車の登録台数合計は対前年同月比-32.2%の2,612台と減少。9月における自動車販売台数は、登録車、軽自動車ともに新車、中古車とも前年割れ。特に新車に関しては、登録車が前年同月比33.9%減、軽自動車は44.2%減と大きく下回った。依然として半導体不足や部品調達の遅滞による減産は克服されない状況が続く、多くのブランドが減産や生産調整を実施していることによる需要ギャップも起こり、結果的に9月の新車販売台数は大きく落ち込んだ。収益情報の目安とみている継続検査の台数は、登録車が対前年度比1.4%減、軽自動車は3.2%増。ほぼ変わらない状況だ。
23. 旅行業・長引くコロナ禍の影響が時間の経過とともに深刻さを増している。パッケージ商品等売るものもなくなり、いま生き残りをかけることに心血を注いでいる。何かしらの生き残るための方法を模索していく現況だ。
24. ビル管理業・近年、取引条件がほとんど変化しない中、最低賃金の引き上げが続いている。（H25年・666円→R3年・824円）。今年は時間単価28円の大幅な上昇であり、契約先に理解を求める活動を推進しているところだ。更に、働き方改革への対応（同一労働同一賃金など）、労働需給の逼迫、社会保険（厚生、健康）改革法の施行に向けての対応など多くの課題に包まれている状況だ。加えて、新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、ホテルの分野のメンテナンス業においては、従業員に対して「雇用調整助成金」等による休業補償でしのいでいるものの、最近、コロナ陽性者の発生が小康状態となり、それに応じてホテル客室稼働も徐々に復活の兆しが見え始めており、ここにきて従業員の確保が急務な課題となっている。また、病院や高齢者利用施設等においては、管理者と連携し、細心の注意の下で業務を遂行しているところだ。全体としてみると、9月分は前年同時期と比べ、新型コロナウイルスの影響のケースを除き、大きな変化はない。しかしながら、現下の新型感染症の感染状況の急速な変化、最低賃金の急激な増額確定など現実の経営課題となって現れ、これらに対応するべく事業活動に当たっているところだ。
25. 広告業・多くの材料の仕入単価が上がったり、輸入の材料が品薄で納期に追われている。

<建設業>

26. 建設業・西日本建設業保証㈱徳島支店によると、令和3年度の県下の公共事業の9月単月の発注状況は、全体で対前年比約12.4%の減となっている。そして、9月末の累計では4.6%減となっている。国や市町村は減少し、県が増加している。建設資材では、鋼材がR03./04に比較して普通鋼板などは45%の値上がりをしており、木材でも大幅な値上がりをしている。(杉正角53%の値上がり)
27. 板金工事業・8月の長雨の影響で9月が異常に忙しかった。年末に材料費の高騰で見積りが出来ない状態になっている。
28. 解体工事業・公共工事については大型工事の発注もあり活況。今後についても大型施設の建て替え等に伴い活況、民間解体工事についても店舗・戸建て住宅等についても計画も含め好転。
29. 鉄骨・鉄筋工事業・受注単価が若干厳しくなってきたが、9月もほぼ前月と変わらない。
30. 水道工事業・水道部材において主材料や輸送コストの高騰、更に新型コロナウイルス感染拡大などを起因とする、市況悪化に伴い値上げが続いている。
31. 電気工事業・新設住宅口数は148件であり、対前年比76.2%と減少した。

<運輸業>

32. 貨物運送業・全般に売上は回復基調にあるが、そのスピードは遅い。また経由単価が海外市況を受け前月比で約3円の上昇。売上の伸びが少ない中、燃料価格の上昇は厳しい局面となっている。
33. 貨物運送業・宅配の一部に好調な動きがあるが、業界全体では低迷したまま淡々としている。燃料の高値が改善されず重い負担が事業者を圧迫している。